

創設關係史料

京都帝國大學文科大學新設費用概算案

京都帝國大學文科大學新設費用概算

○第一號案

即チ從來ノ成案ニ據リテ算出セルモノ

○初年度歳出

| | |
|-------|------------|
| 經常部 | 三九、一三二、二五〇 |
| 臨時部 | 三〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 六九、一三二、二五〇 |
| 經常部内譯 | |
| 俸給及諸給 | 二〇、二六〇、〇〇〇 |
| 廳費 | 一一、一五〇、〇〇〇 |
| 修繕費 | 一五〇、〇〇〇 |
| 旅費 | 九一九、二五〇 |
| 雜給及雜費 | 一、八九八、一〇〇 |

備外國人諸給

四、七五五、〇〇〇

○次年度歳出

經常部

四九、三八四、六一〇

臨時部

三〇、〇〇〇、〇〇〇

合 計

七九、三八四、六一〇

○歳出經常部増加ノ理由

(一) 教官俸給ニ於テ教授、助教授ノ本俸、職務俸、助手ノ月俸、講師ノ手當皆全年額ヲ給スルコト 且ツ又新ニ教授二人(哲學哲學史一人梵語學一人)ヲ増シ各々本俸、職務俸平均額ノ全年額ヲ給スルコトニ由リテ増加ス

(二) 旅費ニ於テ教授二人ノ轉任(或ハ新任) 旅費ノ外ハ教授、助教授、助手、書記ノ轉任新任旅費一切ヲ要セザルベキヲ以テ減少ス

○第三年度歳出

經常部

五四、二二三、九一〇

臨時部

三〇、〇〇〇、〇〇〇

合 計

八四、二二三、九一〇

○經常部歳出増加ノ理由

(一) 教官俸給ニ於テ更ニ新ニ教授二人(社會學、博言學) 助教授一人(教授法)ヲ増シ共ニ本俸、職務俸、平均額ノ全年額ヲ給スルニ由リテ増加ス

(二) 旅費ニ於テ助教授一人ノ新任旅費ヲ要スベキニ由リテ増加ス

(参考)

○初年度開始ノ講座ハ九講座ニシテ左ノ如シ

史學、地理學

二講座

美學、美術史

一講座

哲學、哲學史

一講座

心理學、倫理學、論理學

二講座

(但シ一講座ハ備外國人ヲシテ擔任セシム)

教育學

一講座

國語學、國文學、國史

一講座

漢文、支那語學

一講座

○次年度ニ於テ新ニ開始スル所ノ講座ハ二講座ニシテ左ノ如シ

哲學、哲學史

一講座

梵語學

一講座

○第三年度ニ於テ新ニ開始スル所ノ講座ハ二講座ニシテ左ノ如シ

社會學

一講座

博言學

一講座

○臨時費ハ凡テ金拾五萬圓トシ五ヶ年間ニ支拂フベシ

創設關係史料

京都帝國大學文科大學新設費用概算

第二號案

即チ從來ノ成案ヲ一層節減シ最少額ヲ算出シタルモノ勿論姑息ノ計ナリ（但講座名稱等ハ昨年總長ノ命ヲ承ケル新ニ起草シ文部大臣ニ提出シタル意見書ニ據ル）

初年度歳出

經常部

二〇、四一一、四一〇

臨時部

六、〇〇〇、〇〇〇

合計

二六、四一一、四一〇

第一號案ニ比シテ歳出減少ノ理由

(一) 教授八人ヲ六人（哲學、哲學史、一人、心理學、倫理學、論理學一人）トシ就中三人ハ本俸、職務俸全年額

三人ハ

(二) 助教授七人（英語、佛語、獨乙語、哲學、心理學、國史、梵語各一人）トシ、本俸、職務俸共ニヒケ月分ヲ

給ス

(三) 助手ヲ置カス

(四) 廳費中ノ圖書費八千〇參拾參圓ヲ千圓トシ標本費五百圓ヲ四百五十圓トス

(五) 備外國人諸給ヲ廢ス

次年度歳出

| | |
|-----|------------|
| 經常部 | 二二、九一六、六〇〇 |
| 臨時部 | 六、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 二八、九一六、六〇〇 |

歳出經常部増加ノ理由

一切前年度ニ同シ唯ダ教授、助教授ノ本俸、職務俸共ニ全年額ヲ給スルニ由リテ増加ス

第三年度歳出

| | |
|-----|------------|
| 經常部 | 二九、〇〇〇、〇〇〇 |
| 臨時部 | 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 三七、〇〇〇、〇〇〇 |

歳出經常部増加ノ理由

當年度ニ於テ新ニ教授三人（國史、美學、教育學各一人）ヲ増ス而シテ本俸、職務俸共ニ全年額ヲ給スルニ由リテ増加ス

歳出臨時部ノ増加ハ教授ノ増加ニ伴ヒ圖書標本類ノ購入ヲ増スベキニ由ル

第四年度歳出

| | |
|-----|------------|
| 經常部 | 三二、七〇〇、〇〇〇 |
| 臨時部 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 四二、七〇〇、〇〇〇 |

歳出經常部増加ノ理由

當年度ニ於テ新ニ教授二人（梵語學、社會學、各一人）ヲ増ス而シテ本俸、職務俸共ニ全年額ヲ給スルニ由

リテ増加ス

歳出臨時部増加ノ理由ハ前年度ニ同シ

第五年度歳出

經常部

三六、六〇〇、〇〇〇

臨時部

一〇、〇〇〇、〇〇〇

合計

四六、六〇〇、〇〇〇

歳出經常部増加ノ理由

當年度ニ於テ新ニ教授二人（心理學、倫理學、論理學一人 博言學一人）ヲ増シ而シテ本俸、職務俸共ニ全

年額ヲ給スルニ由リテ増加ス

歳出臨時部増加ノ理由ハ前年度ニ同シ

（參考）

初年度開始ノ講座ハ六講座ニシテ左ノ如シ

哲學、哲學史

二講座

心理學、倫理學、論理學

一講座

國語、國文學

一講座

漢學、支那語學

一講座

東洋史

一講座

第二年度ハ都テ前年度ニ同シ

第三年度ニ於テ新ニ開始スル所ノ講座ハ三講座ニシテ左ノ如シ

國史

一講座

美學

一講座

教育學

一講座

第四年度ニ於テ新ニ開始スル所ノ講座ハ二講座ニシテ左ノ如シ

梵語學

一講座

社會學

一講座

第五年度ニ於テ新ニ開始スル所ノ講座ハ二講座ニシテ左ノ如シ

心理學、倫理學、論理學

一講座

博言學

一講座

京都帝國大學文科大学ニハ中等教員養成ノ爲メ適當ノ設備ヲナスベシ但シ之レニ要スル經費ハ當分別ニ要求セズシテ可ナリトス

又臨時費ハ凡テ金拾萬圓トシ拾ヶ年間ニ支拂フベシ

京都帝國大學文科大学新設費用概算

第參號案

即チ第一號案第貳號案ノ

創設關係史料

初年度ニ於テ第一號案ノ歲出經常部中ヨリ備外國人諸給ヲ除キ又同臨時費中ノ圖書費ヲ貳萬九千圓ノ代ニ壹萬壹千圓トシ

經常部

三四、三七七、三五〇

臨時部

一一、〇〇〇、〇〇〇

合計

四五、三七七、三五〇

次年度ニ於テモ同様ノ理由ニテ

經常部

四二、八〇四、六一〇

臨時部

一一、〇〇〇、〇〇〇

合計

五三、八〇四、六一〇

第三年度ニ於テ始テ外國人ヲ備入ル、コト、シ其用途并ニ諸給ハ第一號案初年度成案ノ通りトシテ

經常部

五八、九六八、九一〇

臨時部

一一、〇〇〇、〇〇〇

合計

六九、九六八、九一〇

(參考) 講座數等ハ凡テ第一號案ニ同シ

臨時費ハ凡テ金拾萬圓トシ九ケ年内ニ支拂フベシ

福原隼二郎氏書翰

拜復御清勝奉賀候、然者京都文科ハ來年度開始致度希望ヲ以テ概算ハ出來上リ候、規模ハ極而小ナルモノ也、四學科トス、哲學、史學、國文、國史ナリ、假ヒ小ナリトモ茲ニ開始ヲ見レハ結構ト考居候、將來ノ事ハ確言難致モ精

々盡力致度、若シ始リ候ハ、設備ナリ、教場ナリ、種々ノ點ニ於テ不足アルモ當初ハ可成御辛拘被下度奉存候、併シ當テ事ハ何トヤラ今日餘リ深ク先々ノ事ヲ御相談スルハ早計ナルヤモ知レス（中略）

十月四日

鏡 二 郎

谷 本 學 臺

拜復

概算ニハ

四學科（史學、國史、哲學、國文）

講座六

内譯

史學、地理學

國文

哲學、哲學史

心理、倫理

渾文

國史

教育學

此丈ニ御座候、尤内譯ハ確定シタルモノトモ申シ難シ

助教授

七人

創設關係史料

結局十三人ノ教官ナリ、其外ノ書記官ハ略ス

右ハ甚小規模ト御考可相成モ一時ニハ六ヶ敷ニ付先口開キト申ス譯也、大臣ハ御提出ノモノハ拜見不仕候、ドノ途始ヨリ完全大事ハ出來難キニ付何分御辛抱是祈ル。本件ハ猶公表セサルモノ一付御含置被下度候、但中川小十郎君ニハ御示置被下候ハ、都合歟ト存候（中略）

十月八日

錄 二 郎

谷 本 學 臺

拜復文科大學ノ事ハ從來心配モ致候得共何分經費不足ニシテ希望ノ如ク實行ニ到リ兼候、午併何時迄モ延期シ置クヘキニアラサレハ、規模ハ甚小ナルモノナレトモ兎ニ角ニ開設スル丈ニハ成功致候（豫算不成立ナラハ格別）尤甚小ナルモノナレトモ京都大學ノ中丈ニモ急要ノモノ多ク金不足ニシテ意ノ如クニハ凡テ行カサル今日、出來タ丈ガ手柄ト思テ貰フ外ハ無之歟ト存候、將來之ヲ完全ニシ擴張スルハ後ノ有力者ニ待ツ外ナシ、不取敢此丈申上候、此事ハ尤今日機密ニ屬スル故此段ハ慥ニ御含置被下度候、殊ニ此事ヲ早クカラ吹聽スルハ不得策ト考申候、新聞等ニ明ニ見エサルハ寧ろ幸ト存候、右特ニ御注意被下度不取敢御返事迄申上候

敬具

十一月二十八日

錄 二 郎

谷 本 老 臺

〔解説〕

京都帝國大學文科大學新設費用概算

谷本博士は海外留學から歸朝後、明治三十六年二月京都帝國大學理工科大學講師囑託となつて京都に居を遷し、木下總長のもとで文科大學開設のための準備を行なつていたが、文科大學組織案なるものを起草し、木下總長を経てこの年十月に文部大臣久保田讓氏に提出した。この新設費用概算(案)の第二號案に「但講座名稱等ハ昨年總長ノ命ヲ承ケ新ニ起草シ文部大臣ニ提出シタル意見書ニ據ル」とある意見書がそれに當る。ところでこの新設費用概算(案)は「京都帝國大學明治三十七年度歳出概算書(文科大學新設分)」という表題を持つた同じく谷本博士の文庫に残る文書と比較すると、その文書は前者の第一號案の初年度歳出の内容を一層詳細に記したものにほかならない。従つてこの新設費用概算(案)は明治三十七年度の起案であることは、この點からも明らかである。もつともこの案は木下總長の意見で文部省に提出するに至らず、一個の谷本私案として留まつたようである。

福原鎌二郎氏書翰

十月十一月に亘る福原氏の書狀三通はいずれも明治三十八年のものである。福原氏は明治三十八年二月から翌年一月まで文部省専門學務局長の職にあり、ついで文部次官に昇任した。この書狀は、いよいよ文科大學開設についての文部省側の決定的態度を表明したものである。しかし開設の規模は、實際翌年六月、勅令第一三五號を以て公布された文科大學に設置さるべき講座の種類、數、すなわち哲學哲學史二、心理學倫理學一、教育學教授法一、支那語學支那文學一(以上は明治三十九年六月開設された)とは、かなり相違する。三十八年に京都帝國大學から文部省に提出された文科大學設立に關する計畫乃至豫算案の原文はいま見ることができないが、これに比して文部省の企畫はかなり縮少されたものらしい。

年 譜

明治三〇 (一九〇七)

- 六 □京都帝國大學設置 □木下廣次專門學務局長本學總長に就任

- 九 □理工科大學開設

明治三二 (一九〇九)

- 九 □法科大學・醫科大學開設

- 一二 □附屬圖書館開設(館長島文治郎)

明治三六 (一九〇三)

- 三 □本學福岡醫科大學開設

明治三八 (一九〇五)

- 一 ○文科大學設立案帝國議會を通過

明治三九 (一九〇六)

- 四 ○狩野亨吉・谷本富・狩野直喜・松本文三郎・桑木嚴
 文文科大學開設委員となる

- 六 ○勅令第一三五號により文科大學開設 哲學哲學史第

- 一(哲學・西洋哲學史)・同第二(印度哲學史)・心理學
 倫理學・教育學教授法・支那語學支那文學の六講座設

置

- 七 ○狩野亨吉(倫理)・谷本富(教育)・狩野直喜(支文)
 教授に就任 ○狩野亨吉教授文科大學學長に就任 ○

- 松本文三郎(印哲)教授に就任 ○桑木嚴(西哲)・

- 松本亦太郎(心理)教授に就任

- 八 ○内田銀藏(國史)(兼)教授に就任 ○文科大學規程
 制定 ○島文治郎(文概)助教授に來任

- 九 ○文科大學開設 哲學科授業開始(入學生本科一六名
 選科一七名) ○専有建物なきため本學舊本館理工科

- 大學二階中央化學教室の三室を借用 ○文科大學學友
 會創立

- 一一 ○新村出二年間英・佛・獨國へ留學(四・三四・四) ○
 桑原隲藏二年間清國へ留學(四〇・四三・四) ○榊亮三郎

- 二年間英・佛・獨國へ留學(四〇・三四・四)

明治四〇 (一九〇七)

- 一 ○榊亮三郎(梵文)・新村出(言語)助教授に就任 ○

- 來朝中のイェール大學ジョージ・フッド教授三月まで
 宗教哲學の講義を行なう

- 四 ○坂口昂(西史)助教授に就任

- 五 ○國史學・史學地理學第一(西洋史)・同第二(地理學)
 東洋史學・宗教學・社會學・西洋文學(獨逸文學)の

- 七講座設置 ○深田康算三年間獨・佛國へ留學

- 六 ○文科大學の建物として木造二階建建物(昭和一一・

一〇撤去) 竣成 その東半部に移轉

七 〇高瀬武次郎(支哲)・朝永三十郎(西哲)助教に就任

□久原躬弼理工科大學教授總長事務取扱に就任

八 〇藤代禎輔(獨文)教授に就任

九 〇史學科授業開始 (入學生本科二一名 選科二名)

一〇 〇石橋五郎(地理)(兼)助教に就任 〇支那學會創立

□岡田良平本學總長に就任

明治四一 (一九〇八)

二 〇友枝高彦(倫理)助教に就任 〇史學研究會創立

四 〇本年から祝式を廢止 七月卒業證書授與式舉行となる

五 〇國語學國文學・東洋史學第二・西洋文學第二(英文學)・言語學・梵語學梵文學の五講座開設 〇小川琢

治(地理)教授に就任 〇吉澤義則(國文)助教に就任

六 〇島文治郎助教附屬圖書館司書官に轉出 〇事務室

建物の東方に心理學實驗室建物(木造平屋一部現存)竣成

九 〇文學科授業開始(入學生本科一三名 選科八名)

□菊池大麓本學總長に就任

一〇 〇狩野亨吉教授退官 〇松本文三郎教授文科大學學長に就任

一一 〇坂口昂助教二年間獨・佛・英國へ留學

一二 〇鈴木虎雄(支文)助教に就任

明治四二 (一九〇九)

三 〇原勝郎(西史)教授に就任

四 〇桑原隲藏(東史)教授に就任

五 〇國史學第二・史學地理學第三(西洋史)・東洋史學第三・哲學哲學史第三(支那哲學史)・美學美術史の五講座設置 〇新村出助教(言語)教授に昇任 三浦

周行講師(國史)・上田敏講師(英文)教授に就任

〇事務室建物の東北・心理學實驗室の北側に木造二階建研究室竣成(昭和一〇・三文學部中央教室建築のため撤去)

七 〇第一回卒業生本科一二名 選科修了者八名

九 〇内藤虎次郎講師(東史)教授に就任 〇研究室規定制定 〇朝永三十郎助教三年間獨・佛・英國へ留學

□以文會創立

明治四三 (一九一〇)

二 〇京都文學會創立

四 〇石橋五郎助教二年間獨・英國へ留學 〇「藝文」第一號發刊

五 〇榊亮三郎助教(梵文)教授に昇任

七 〇島文治郎講師(英文)助教に來任

八 〇西田幾多郎(哲學)助教に就任

一〇 〇皇太子殿下來學 文科大學巡覽

一一 〇深田康算(美學)教授に就任

明治四四 (一九一〇)

□學生集會所設立

四 □福岡醫科大學本學より分れ九大に所屬

九 ○藤井乙男講師(國文) 教授に就任 ○野上俊夫講師(心理) 助教授に就任

一〇 ○陳列館起工 ○文科大學叢書第一卷「大唐西域記」發刊 ○新村出教授附屬圖書館長に就任 ○高瀬武次郎助教授三年間清・獨・英國へ留學

明治四五 (一九二)

一 ○坂口昂助教授(西史) 教授に昇任

二 ○オックスフォード大學セイス教授來學

五 ○哲學哲學史第四(西洋哲學史) 講座設置 □久原躬敬理工科大學教授本學總長に就任

大正 元 (一九一)

九 ○島文治郎助教授三高教授に轉任 本學助教授を兼任

○矢野仁一(東史) 助教授に就任

一〇 □本學本館燒失

一一 ○濱田耕作講師三年間英・佛・獨國へ留學(・三一・五三)

大正 二 (一九三)

一 ○朝永三十郎助教授(西哲) 教授に昇任

三 ○濱田耕作講師(考古) 助教授に就任 ○獨逸クライヒスワルト大學ヤコビ講師來學

四 ○羽田亨講師(東史) 助教授に就任

五 □澤柳政太郎東北大總長本學總長に就任

六 ○野上俊夫助教授二年間獨・佛・米國へ留學(一・五・〇)

七 ○松本亦太郎教授東大に轉任

八 ○谷本富教授退官 ○小西重直(教育)・藤井健治郎(倫理)・西田幾多郎助教授(宗教) 教授に就任

大正 三 (一九四)

三 ○文科大學叢書第二卷「覆元甄古今雜劇三十種」刊行

四 ○陳列館(棟瓦造) 新營第一期工事竣成 全史學科教室移轉 □荒木寅三郎醫科大學教授總長事務取扱に就任

七 ○桑木嚴翼教授東大に轉任 □理科大學・工科大學分設

八 ○西田幾多郎教授哲學哲學史第一講座擔任 □山川健次郎東大總長本學總長を兼任

九 ○友枝高彦助教授東京高師に轉任

一一 ○京都哲學會創立

大正 四 (一九五)

四 ○高瀬武次郎助教授(支哲) 教授に昇任

六 □荒木寅三郎醫科大學教授本學總長に就任

一一 ○陳列館開館式舉行

大正 五 (一九六)

一 ○今西龍講師(東史) 助教授に就任 ○史學研究會編「史林」創刊 ○鈴木虎雄助教授二年間中國へ留學

四 ○京都哲學會編「哲學研究」創刊

五 ○藤代禎輔教授文科大學學長に就任 ○文科大學叢書第三卷「翻譯名義大集」刊行

- 七 ○上田敏教授逝去
- 九 ○考古學講座設置

大正 六 (一九一七)

- 三 ○「考古學研究報告」第一冊刊行 ○島文治郎助教授
英・米・佛國へ留學

- 五 ○厨川辰夫講師(英文) 助教授に就任

- 八 ○矢野仁一助教授二年間米國へ留學(一八・一〇)

- 九 ○野上俊夫助教授(心理)・濱田耕作助教授(考古
教授に昇任 ○千葉胤成講師(心理) 助教授に就任

- 一一 ○天皇陛下陳列館に行幸 ○オックスフォード大學セ
イス教授來學 特別講演を行なう

- 一二 ○波多野精一(宗教) 教授に就任

大正 七 (一九一八)

- 六 ○文科大學叢書第四卷「滿濟准后日記」第一冊刊行

- 七 ○島文治郎(兼) 助教授(英文) (兼) 教授に昇任

- 「考古學研究報告」第二冊刊行

大正 八 (一九一九)

- 二 ○文科大學を文學部と改稱

- 五 ○經濟學部新設

- 六 ○國語學國文學第一・支那語學支那文學第二の二講座
設置 ○厨川辰夫助教授(英文) 教授に昇任 ○西田
直二郎講師(國史) 助教授に就任

- 七 ○狩野直喜教授文學部長に就任 ○吉澤義則助教授
(國文)・鈴木虎雄助教授(支文) 教授に昇任 ○羽田

- 亨助教授二年間米・英・佛國へ留學 ○内田銀藏教授
逝去

- 八 ○田邊元(哲學)・澤村專太郎(美史) 助教授に就任

- 成瀬清講師(獨文) (兼) 助教授に就任

- 九 ○石橋五郎(兼) 助教授(地理) (兼) 教授に昇任

- 一〇 ○「考古學研究報告」第三冊刊行

大正 九 (一九二〇)

- 二 ○矢野仁一助教授(東史) 教授に昇任

- 五 ○西田直二郎助教授二年間英・米・獨・佛國へ留學

- 七 ○喜田貞吉講師(國史)・米田庄太郎講師(社會) 教
授に就任

- 九 ○「考古學研究報告」第四冊刊行 ○支那學社編「支
那學」創刊

- 一〇 ○「考古學研究報告」第五冊刊行

- 一一 ○田中秀史講師(希臘語) 助教授に就任

大正 一〇 (一九二一)

- 三 ○學年度改正 ○島文治郎(兼) 教授退官 ○エドワ
ード・クラーク講師(英文) 教師に就任

- 四 ○文科大學叢書第五卷「源氏物語」第六卷「三國遺
事」刊行

- 六 ○成瀬清助教授二年間獨・米國へ留學

- 一〇 ○太宰施門(佛文) 助教授に就任

- 一一 ○「考古學研究報告」第六冊刊行

- 一二 ○小川琢治教授理學部に轉任 ○田邊元助教授二年間

獨・佛・米國へ留學

大正一一 (一九二二)

- 二 ○植田壽藏講師(美學) 助教授に就任 ○今西龍助教
授二年間中國へ留學

- 四 ○原勝郎教授文學部長に就任 ○英國皇太子殿下來學
日英關係資料展觀

- 五 ○宗教學第二(基督教學) 講座設置 ○田中秀央助教
授二年間英・佛・獨國へ留學

- 六 ○「景印舊鈔本」第一集刊行 □本學創立二十五周年
記念式舉行

- 八 ○小島祐馬(支哲)・澤瀉久孝(國文) 助教授に就任

- 一一 ○皇后陛下本學に行啓 文學部陳列館その他巡覽

- 一二 ○「考古圖錄」刊行

大正一二 (一九二三)

- 一 ○文學部規程改正

- 二 ○シルヴァン・レヴィ教授來學 特別講演を行なう

- 三 ○澤村專太郎助教授二年間中・佛・米國へ留學

- 四 □第七臨時教員養成所(國漢科) 開設

- 五 ○千葉胤成助教授東北大に轉任

- 六 ○「考古學研究報告」第七冊刊行 ○植村滯之助講師
二年間英・獨・佛國へ留學

- 九 ○厨川辰夫教授逝去

- 一 ○「考古學研究報告」第八冊刊行

□農學部設置

- 二 ○植村滯之助講師(西史) 助教授に就任 ○陳列館新
營第二期工事(東面煉瓦造) 竣成 ○哲學科文學科研
究室新營第一期工事(西面煉瓦造) 竣成 ○研究室規
定廢止 圖書閱覽室規則及圖書閱覽室細則制定

大正二三 (一九二四)

- 一 ○原勝郎文學部長逝去 ○坂口昂教授文學部長事務取
扱に就任 ○坂口昂教授文學部長に就任

- 二 ○地球學團編「地球」創刊

- 三 □學生健康相談所設置

- 四 ○羽田亨助教授(東史) 教授に昇任

- 九 ○喜田貞吉教授退官 ○西田直二郎助教授(國史) 教
授に昇任

- 本學本館竣成

- 一二 ○石田憲次講師(英文) 助教授に就任 二年間英・佛
・米國へ留學

大正二四 (一九二五)

- 二 ○小島祐馬助教授二年間佛國へ留學 ○植田壽藏助教
授二年間獨・佛・英國へ留學

- 三 ○米田庄太郎教授退官 ○陳列館新營第三期工事(東
北面鐵筋コンクリート造) 竣成 ○哲學科文學科研究
室新營第二期工事(西北隅及北面鐵筋コンクリート造)
竣成

- 五 ○西洋文學第三(佛蘭西文學) 講座設置 ○時野谷常
三郎(西史)(兼)助教授に就任 □大學祝日制定 皇

太子殿下本學に行啓（野上教授ら説明） 大園遊會開
催

- 六 □樂友會館竣成
- 七 ○和辻哲郎講師（倫理）助教授に就任
- 八 ○「考古學研究報告」第九冊刊行
- 九 ○内田文庫收藏
- 一一 ○時野谷常三郎助教授二年間獨國へ留學
- 一二 ○文學部規程改正

□京大學生事件起る

入正一五（一九二〇）

- 一 ○選科に對する學年試験を廢止 ○入學定員および專攻科目選定に關する規定改正
- 五 ○今西龍助教授（東史）京城大教授に轉任 本學教授を兼任 ○フーシユ教授來學 特別講演を行なう
- 六 ○宗教學第三（佛教學）講座設置
- 八 ○内藤虎次郎教授退官 ○天野貞祐（西哲）助教授に就任

- 九 ○スエーデン皇太子・同妃來學 陳列館巡覽
- 一一 ○シヤム暹理文部大臣ダニー親王來學 陳列館巡覽
- 文學部規程改正

昭和 二（一九二七）

- 一 ○文學科入學定員規定改正 專攻科目選定規定制定
- 和辻哲郎助教授三年間獨國へ留學（一三・一）
- 三 ○「考古學研究報告」第十冊刊行

- 四 ○小西重直教授文學部長に就任 ○藤代禎輔教授逝去
- 倉石武四郎講師（支文）助教授に就任

- 五 ○小牧實繁講師三年間獨國へ留學（二七・四・一〇）
- 七 ○内藤虎次郎名譽教授となる ○中村直勝（國史）（兼）助教授に就任
- 一〇 ○哲學哲學史第五（西洋哲學史）講座設置
- 一一 ○田邊元助教授（哲學）教授に昇任 ○植田壽藏助教授九大に轉任 ○倉石武四郎助教授二年間中國へ留學（三三・五七）

昭和 三（一九二八）

- 一 ○坂口昂教授逝去
- 二 ○狩野直喜教授退官
- 四 ○狩野直喜名譽教授となる
- 五 ○モンテーギユ博士來學 講演を行なう
- 八 ○藤井乙男教授退官
- 九 ○西田幾多郎教授退官
- 一〇 ○植村清之助助教授逝去
- 一一 ○深田康算教授逝去
- 一二 ○藤井乙男名譽教授となる ○岩开勝二郎助教授二年間獨國へ留學（四三・六・六）

昭和 四（一九二九）

- 一 ○高瀬武次郎教授退官
- 二 ○西田幾多郎名譽教授となる ○岩井勝二郎講師（心理）助教授に就任

三 ○原眞乘講師(梵文) 助教授に就任 □新城新藏理學部教授本學總長に就任

四 ○藤井健治郎教授文學部長に就任 ○羽溪了諦講師(佛敎)・那波利貞講師(東史) 助教授に就任 ○植田壽藏(美學) 助教授に就任 ○高瀬武次郎名譽教授となる

五 ○東方文化學院京都研究所(所長狩野直喜) 開設 事務を本學部陳列館内に開始
○松本文三郎教授退官 ○マスベロ教授來學 講演を行なう

八 ○松本文三郎名譽教授となる

二一 ○ビニヨン博士來學 講演を行なう
二二 ○陳列館新築第四期工事(北面) 竣成 全館完成 寫眞室その北部に移轉擴張

昭和 五 (一九三〇)

一 ○白井二尚講師二年間獨國へ留學(一三・一七・二六)
三 ○ドイツライプチヒ大學との間に學生交換契約成立 本學部より卒業生二名派遣 □第七臨時教員養成所廢止

四 ○スタイン博士來學
五 ○澤村專太郎助教授(美學) 教授に昇任 ○澤村專太郎教授逝去

七 ○原隨園(西史) 助教授に就任
八 ○小川琢治名譽教授となる ○「考古學研究報告」第

十一册刊行

一〇 ○濱田耕作教授文學部長に就任 ○成瀬清助教授(獨文) 教授に昇任

一一 ○リサン師來學 □東方文化學院京都研究所北白川に新館竣成移轉

一二 ○桑原隲藏教授退官

昭和 六 (一九三二)

一 ○藤井健治郎教授逝去
二 ○桑原隲藏名譽教授となる ○ダニウニ博士來學 講演を行なう

三 ○朝永三十郎教授退官 ○田中秀典助教授(西古)・小島祐馬助教授(支哲)・天野貞祐助教授(西哲)・和辻哲郎助教授(倫理)教授に昇任 ○瀨原退藏講師(國文)・落合人郎講師(佛文)・小牧實繁講師(地理) 助教授に就任

四 ○朝永三十郎名譽教授となる ○山内得立講師(西哲) 教授に就任

五 ○桑原隲藏名譽教授逝去 ○「藝文」第二十二年第三號總目索引發行と共に廢刊 ○那波利貞助教授二年間佛國へ留學(六・八・一八)

七 ○三浦周行教授退官 名譽教授となる

九 ○三浦周行名譽教授逝去

昭和 七 (一九三三)

三 ○文學部規程改正

四 ○榎亮三郎教授退官

五 ○矢野仁一教授退官 ○今西龍(兼)教授逝去 ○榎田壽藏助教授(美學)教授に昇任

六 ○榎亮三郎名譽教授となる ○アッカソ教授およびハトラトン博士來學 講演を行なう ○足利惇氏講師一年間佛國へ留學(ヤキー・シ・シ) ○桑原文庫收藏

七 ○矢野仁一名譽教授となる ○臼井二尙講師(社會)助教授に就任

○ 羽田亨教授文學部長に就任 ○陳列館北側に隣接して木造平屋教室一棟竣成

一一 ○澤瀉久孝助教授二年間英國へ留學(ヘ・キ・ソ・ソ)

昭和八(一九三三)

三 ○哲學科文學科研究室第三期工事(東北隅)竣成 ○太宰施門助教授(佛文)教授に昇任 ○九鬼周造講師(西哲)助教授に就任 ○「國史研究室藏史料集」刊行 ○「考古學研究報告」第十二册刊行

四 ○小西重直文學部教授本學總長に就任

○京都府神職會寄附により神道史講義開講 ○臼井一尙助教授社會學講座擔任 ○文學部卒業生京大俱樂部組織 □瀧川事件起る

五 ○時野谷常三郎(兼)助教授(西史)・原隨國助教授(西史)教授に昇任 ○木村素衛(教育)助教授に就任

六 ○梅原末治講師(考古)助教授に就任 □小西重直總

長退官 □山本美越乃法學部教授本學總長事務取扱に就任

七 ○池田文庫收藏 □松井元興理學部教授本學總長に就任

一一 ○小西重直名譽教授となる

一二 ○哲學科史學科入學定員改正

昭和九(一九三四)

三 ○エドワード・クラーク教師解任

四 ○本田義英講師(印哲)助教授に就任

六 ○内藤虎次郎名譽教授逝去

七 ○西洋文學第四(英文學)講座設置 ○石田憲次助教授(英文)教授に昇任 ○和辻哲郎教授東大に轉任

九 ○「考古學研究報告」第十三册刊行

一〇 ○野上俊大教授文學部長に就任 □本學西部に獨逸文化研究所竣成

一二 ○宮崎市定講師(東史)助教授に就任

昭和一〇(一九三五)

三 ○天野貞祐教授倫理學講座擔任 ○羽湊了諦助教授(佛敎)教授に昇任 ○九鬼周造助教授(西哲)教授に昇任 哲學哲學史第四講座擔任 ○西谷啓治講師(宗教)助教授に就任 ○澤瀉久孝助教授國語學國文學第一講座分擔 ○「考古圖録續編」刊行 ○クラーク文庫收藏 ○哲學科文學科研究室新營第四期工事(東面全部)竣成 木造二階建教授・助教授室建物西半を撤

去 ○「景印舊鈔本」第二集刊行 □本學西部に關西日佛學館新築起工

六 ○本田義英助教授(印哲) 教授に昇任 哲學哲學史第二講座擔任 ○ペリオ教授來學

八 ○哲學科文學科研究室新營第五期工事(南面全部) 起工

一〇 ○宮崎市定助教授二年間佛・米國へ留學(二・一・三〇)

一一 ○東教室(鐵筋コンクリート造三階建) 新營工事起工

○文學部三十周年記念祝賀式舉行 京大俱樂部第二回總會開催 「文學部三十周年史」刊行 ○「景印舊鈔本」第三集・「尼崎本萬葉集第十六」複製本・「舊鈔本史記孝景本紀第十一」複製本刊行

昭和 一 (一五七)

一 ○石橋五郎教授退官 □附屬圖書館閱覽室燒失

三 ○藤直幹講師(國史) 助教授に就任 ○小牧實繁助教授史學地理學第二講座分擔 ○「景印舊鈔本」第五・六集刊行

四 ○須原退藏助教授退官

八 ○吉澤義則教授退官 ○「景印舊鈔本」第七・八集刊行

九 ○澤瀉久孝助教授(國文) 教授に昇任 國語學國文學第一講座擔任 ○文學部東教室第一期工事完了 研究室移轉 ○石橋五郎名譽教授となる

一〇 ○小島祐馬教授文學部部長に就任 ○泉井久之助講師

(言語) 助教授に就任 ○吉澤義則名譽教授となる

○新村出教授退官 ○羽田亨教授附屬圖書館長に就任

○文學部本館南側増築完了 本館完成 木造二階建より教官室事務室移轉

一 一 ○西谷啓治助教授獨國へ留學(三・三・一四・七)

昭和 二 (一五七)

一 ○新村出名譽教授となる ○落合太郎助教授言語學講座分擔 ○木村孝一記念圖書收藏 ○トウツチ博士來學 特殊講演ならびに一般講演を行なう

二 ○秩父宮來學 陳列館巡覽

三 ○波多野精一教授宗教學第二講座擔任 宗教學第一講座分擔 ○羽溪了諦教授宗教學第一講座分擔 ○本田義英教授梵語學梵文學講座分擔 ○久松眞一(佛敎) 助教授に就任 ○「地理學研究報告」第一册刊行

五 ○シュプランガー博士來學 講演を行なう

六 □濱田耕作教授本學總長に就任

七 ○波多野精一教授宗教學第一講座分擔 ○波多野精一教授退官

九 ○天野貞祐教授學生主事學生課長に就任

一〇 ○梅原末治助教授考古學講座分擔 ○倉石武四郎助教授支那語學支那文學第一講座分擔 ○「考古學研究報告」第十四册刊行

一一 ○野上俊夫教授教育學教授法講座分擔 ○波多野精一名譽教授となる ○岩井勝二郎助教授(心理) 教授に

昇任 心理學講座分擔 ○野上俊夫教授心理學講座分擔 ○野上俊夫教授心理學講座擔任 ○岩井勝二郎教授逝去

一一 ○落合太郎教授(言語)教授に昇任 言語學講座擔任 ○日本精神史講座設置

昭和二三 (一九四八)

一 ○鈴木虎雄教授支那語學支那文學第一講座分擔 ○鈴木虎雄教授退官

三 ○文學部規程改正 ○青木正兒(支文)教授に就任

支那語學支那文學第一講座擔任 ○倉石武四郎助教授支那語學支那文學第二講座分擔 ○西田直二郎教授日本精神史講座兼擔 ○高山岩男講師(精神史)助教授に就任 ○那波利貞助教授(東史)教授に昇任 東洋史學第一講座擔任 ○小牧實繁助教授(地理)教授に昇任 史學地理學第二講座擔任 ○原真乘助教授退官 ○中西信太郎講師(英文)助教授に就任 ○「地理學研究報告」第二冊刊行

五 ○鈴木虎雄名譽教授となる ○田中秀央教授西洋文學第二講座擔任

七 ○濱田耕作總長逝去 ○平野正雄工學部教授總長事務取扱に就任

一一 ○羽田亨教授附屬圖書館長に就任

一一 ○西田直二郎教授文學部長に就任 ○羽田亨教授本學總長に就任

昭和一四 (一九三九)

一 ○文學部規程改正

二 ○西洋古典語學西洋古典文學專攻學生を置く

三 ○遠藤嘉基講師(國文)助教授に就任 ○梅原末治助教授考古學講座擔任 ○木村素衛助教授教育學教授法講座擔任

四 ○倉石武四郎助教授(支文)教授に昇任 支那語學支那文學第二講座擔任

五 ○附屬圖書館新館起工

七 ○梅原末治助教授(考古)教授に昇任 考古學講座擔任

八 ○人文科學研究所設置 ○小島祐馬教授人文科學研究所長に就任

昭和一五 (一九四〇)

三 ○木村素衛助教授(教育)教授に昇任 教育學教授法講座擔任 ○西谷啓治助教授宗教學第一講座擔任 ○「考古學研究報告」第十五冊刊行

六 ○出村實造講師(東史)助教授に就任

一一 ○成瀬清教授文學部長に就任

一二 ○伊太利語學伊太利文學講座設置

三 ○文學部規程改正 ○遠藤嘉基教授國語學國文學第二講座分擔 ○宮崎市定助教授東洋中學第二講座分擔

○西田直二郎教授日本精神史講座分擔 ○島芳夫講師
(倫理) 助教授に就任

四 ○「紀元二千六百年記念史學論文集」刊行

五 ○九鬼周造教授逝去 ○東教室の東側に木造二階建一棟完成

六 ○ゴルーベフ博士來學 講演を行なう ○山内得立教授哲學史第四講座分擔

九 ○京都帝國大學報國隊結成

一一 ○小川琢治名譽教授逝去

一二 ○小島祐馬教授退官 □在學年限三か月短縮につき卒業式舉行

昭和一七 (一九四二)

一 ○時野谷常三郎教授退官

三 ○松村克己講師(宗教)・足利惇氏講師(梵文)・重澤俊郎講師(支文) 助教授に就任

五 ○野上俊夫教授退官

六 ○木村素衛教授心理學講座分擔 ○「景印舊鈔本」第九・十集刊行

七 ○宮崎市定助教授東洋史學第二講座擔任

八 ○野上俊夫名譽教授となる

九 ○澤瀉久孝教授附屬圖書館長に就任 ○原隨園教授史學地理學第三講座分擔 □在學年限六か月短縮につき卒業式舉行(以後昭和二五年まで九月卒業あり)

一〇 ○鈴木成高講師(西史) 助教授に就任 ○小島祐馬名

譽教授となる。

一一 ○落合太郎教授文學部長に就任

昭和一八 (一九四三)

三 ○「考古學研究報告」第十六冊・「考古學資料叢刊」第一・二冊刊行

五 ○井上智勇講師(西史)・井島勉講師(美學) 助教授に就任

七 ○西谷啓治助教授(宗教) 教授に昇任

九 ○羽溪了諦教授退官

一〇 ○第一回大學院特別研究生選定され研究を開始 □在學徵集延期停止

一一 ○室賀信夫講師(地理) 助教授に就任 □本學入營入團學生壯行式舉行

一二 ○松本文三郎名譽教授逝去 □學徒兵入營入團

昭和一九 (一九四四)

一 ○勤勞動員のため學生滋賀縣野洲郡中州村に出動

三 ○勤勞動員のため學生滋賀縣甲賀郡岩根村に出動

五 ○文學部勤勞協議會設置 ○宮崎市定助教授(東史) 教授に昇任 東洋史學第二講座擔任 ○勤勞動員のため學生愛知縣豊川海軍工廠に出動

七 ○矢田部達郎(心理) 教授に就任 心理學講座擔任 ○勤勞動員のため學生宇治製造所に出動(第一次)

九 ○白井二尚助教授(社會) 教授に昇任 社會學講座擔任 ○「授業並ニ試問ニ關スル臨時措置」施行 ○勤勞動

一〇 ○「授業並ニ試問ニ關スル臨時措置」施行 ○勤勞動

員のため學生宇治製造所に出動(第二次)

一 ○天野貞祐教授退官

二 ○建物疎開のため史學科第一教室撤去

昭和二〇 (一九四五)

一 ○園原太郎講師(心理) 助教授に就任 ○勤勞動員のため學生三菱重工業京都機器製作所へ出動

二 ○勤勞動員のため學生宇治製造所へ出動(第三次)

三 ○田邊元教授退官

四 ○成瀬清教授退官

五 ○藤井乙男名譽教授逝去

六 ○西田幾多郎名譽教授逝去 ○勤勞動員のため學生滋賀縣高島郡百瀬村に出動 □學生部に學生課・動員課設置

設置

七 ○勤勞動員のため學生岡山縣勝田郡南和氣村に出動

一〇 ○木村素衛教授學生主事學生部長に就任 □戰時教育令・學徒動員令廢止

一一 ○羽田亨總長退官 ○尾崎文庫收藏 □鳥養利三郎工學部教授本學總長に就任 □總合研究體制設置

一二 ○小牧實繁教授退官

昭和二一 (一九四六)

二 ○木村素衛教授逝去 ○大山定一講師(獨文) 助教授に就任

三 ○日本精神史講座廢止 ○島芳夫助教授(倫理) 教授に昇任 倫理學講座擔任 ○高山岩男助教授(哲學) 教授に昇任

授に昇任 哲學哲學史第一講座擔任 ○久松眞一助教授(佛敎) 教授に昇任 宗敎學第二講座擔任 ○田邊元・成瀬清・羽田亨名譽教授となる ○室賀信夫助教授・田中秀央教授退官 ○文學部規程改正

四 ○石橋五郎名譽教授逝去 ○鈴木成高助教授史學地理學第三講座分擔 ○井上智勇助教授史學地理學第三講座分擔 ○米田文庫收藏

六 ○文學部教員適格審査委員會第一回委員會開催 ○植田壽藏教授・西田直二郎教授退官

七 ○高山岩男教授退官 ○榑亮三郎名譽教授逝去 ○柴田實講師(國史) 助教授に就任

八 ○山内得立教授哲學哲學史第一講座擔任 哲學哲學史第五講座分擔

一一 ○重澤俊郎助教授哲學哲學史第三講座分擔 ○井島勉助教授美學美術史講座分擔 ○田村實造助教授東洋史學第三講座擔任

一二 ○本田義英教授文學部長に就任 ○落合太郎教授三高校長に轉任

昭和二三 (一九四七)

一 ○重澤俊郎助教授哲學哲學史第三講座擔任 ○井島勉助教授美學美術史講座擔任

二 ○田中文庫收藏

三 ○織田武雄講師(地理) 助教授に就任 ○皇太子殿下來學 陣列館巡覽 ○遠藤嘉基助教授國語學國文學第

元勳館通(1910-1945)

- 二講座擔任 ○中西信太郎助教授西洋文學第一講座擔任
 任 ○大山定一助教授西洋文學第一講座擔任 ○久松
 眞一教授宗教學第一講座分擔 ○原隨園教授國史學第
 一講座分擔 ○柴田實助教授國史學第二講座分擔
- 四 ○井島勉助教授(美學) 教授に昇任 美學美術史講座
 擔任 ○松平千秋講師(西古) 助教授に就任 ○織田
 武雄助教授史學地理學第二講座分擔 ○泉井久之助助
 教授(言語) 教授に昇任 言語學講座擔任
- 五 ○野上素一講師(言語) 助教授に就任 ○野田又夫
 (哲學) 助教授に就任 ○田村實造助教授(東史) 教
 授に昇任 東洋史學第三講座擔任 ○原隨園教授附屬
 圖書館長に就任
- 六 ○下程勇吉講師(教育)・宇都宮清吉講師(東史) 助
 教授に就任 ○吉川幸次郎講師(支文) 教授に就任
 支那語學支那文學講座擔任 ○青木正兒教授退官
- 七 ○哲學哲學史第六(西洋哲學史) 講座設置 ○田中美
 知太郎(西哲) 助教授に就任 ○鈴木成高助教授・西
 谷啓治教授退官
- 一〇 ○「支那語學支那文學」の稱を「中國語學中國文學」
 と改む □本學創立五十周年記念祝賀式舉行
- 一一 ○植田壽藏名譽教授となる ○高田三郎(西哲) 助教
 授に就任
- 一二 ○狩野直喜名譽教授逝去 ○田中秀央名譽教授となる
- 昭和二三 (一九四八)
- 一 ○松村克己助教授・中村直勝(兼) 助教授退官
- 二 ○田中美知太郎助教授哲學哲學史第五講座擔任 ○高
 田三郎助教授哲學哲學史第六講座擔任
- 三 □この本年から三月卒業復活 □附屬圖書館新館に閱
 覽室・事務室移轉
- 五 ○松尾義海講師(印哲) 助教授に就任
- 六 ○井上智勇助教授(西史) 教授に昇任 史學地理學第
 三講座擔任
- 七 ○小西重直名譽教授逝去
- 八 ○額原退藏講師(國文) 助教授に就任 ○額原退藏助
 教授(國文) 教授に昇任 伊太利語學伊太利文學講座
 擔任 ○額原退藏教授逝去 ○下程勇吉助教授(教育)
 教授に昇任 教育學教授法講座擔任 ○武内義範講師
 (哲學) 助教授に就任
- 九 ○原隨園教授文學部長に就任 ○宇都宮清吉助教授名
 大に轉任 ○天野貞祐名譽教授となる ○本田義英教
 授退官
- 一〇 ○有賀鐵太郎(基教) 教授に就任 宗教學第二講座擔
 任 ○藤直幹助教授阪大に轉任 ○「考古學資料叢
 刊」第三冊刊行
- 一二 □學生食堂および學生健康相談所變失 □學内揭示規
 程など制定
- 昭和三四 (一九四九)
- 一 □東方文化研究所を本學人文科學研究所に合併

- 二 ○中西信太郎助教授(英文) 教授に昇任 西洋文學第二講座擔任 ○瀧原文庫收藏
- 三 □本學協同組合設立
- 四 ○遠藤嘉基助教授(國文) 教授に昇任 國語學國文學第二講座擔任
- 五 ○佐伯富講師(東史) 助教授に就任 ○倉石武四郎教授東大に轉任 ○太宰施門教授退官 ○野間光辰(國文) 助教授に就任 □新制大學發足 □教育學部設置
- 六 ○原隨園教授教育學部長事務取扱に就任 ○久松眞一教授退官 ○黒田正利(伊文)・伊藤義教(梵文)・上野昭夫(美學)・八木崑(心理)・大島康正(哲學)・善波周(梵文)・村口敷之亮(考古)・林憲一郎(佛文)・三浦アンナ(獨文) 講師(專任)に就任
- 八 ○三浦アンナ講師・林憲一郎講師分枝に轉出 ○村田敷之亮講師阪大へ轉任 □吉田分校開設
- 一〇 ○グルッセ博士來學
- 一一 ○泉井久之助教授附屬圖書館長に就任 ○小葉田淳(國史) 教授に就任 國史學第一講座擔任 ○黒田正利講師岡山人に轉任 ○ブルンナー博士來學 講演を行なう
- 一二 ○文學部規程(新制)制定
- 昭和二五 (一九五〇)
- 一 ○波多野精一名譽教授逝去
- 二 ○高瀬武次郎名譽教授逝去 ○田中美知太郎助教授
- (西哲) 教授に昇任 哲學哲學史第五講座擔任 ○高田三郎助教授(西哲) 教授に昇任 哲學哲學史第六講座擔任 ○長尾雅人(佛教) 助教授に來任
- 三 ○足利惇氏助教授(梵文) 教授に昇任 梵語學梵文學講座擔任 ○大山定一助教授(獨文) 教授に昇任 西洋文學第一講座擔任 ○有光教一(考古) 講師(專任)に就任
- 四 ○柴田實助教授分枝に轉出 ○重澤俊郎助教授(支哲) 教授に昇任 哲學哲學史第三講座擔任 ○伊吹武彦(佛文) 教授に來任 西洋文學第三講座擔任 ○ストーナーカー博士來學
- 五 ○保田清(倫理) 講師(專任)に就任 ○三浦アンナ(獨文) 講師(專任)に來任 □フアース氏來學 □宇治分校開設 □停年制改正(滿六十三歳)
- 六 ○田中謙一講師(專任)に就任
- 七 ○小川環樹(中文) 教授に就任 中國語學中國文學第二講座擔任
- 八 ○正木正(教育)(兼)教授に就任
- 九 ○宮崎市定教授文學部長に就任 ○宮崎市定教授教育學部長事務取扱を兼任 ○太宰施門名譽教授となる □京都大學名譽教授稱號授與規程制定
- 一〇 □告示第九號により學生のストライキを禁止
- 一一 ○織田武雄助教授(地理) 教授に昇任 史學地理學第二講座擔任

昭和二六 (一九五一)

- 二 □學内集會規程・學内團體規程制定
 - 三 ○長尾雅人助教授(佛敎) 教授に昇任 宗教學第三講座擔任 ○澤瀉久孝教授・石田憲次教授退官 ○正木正教授教育學部に轉出 ○ジョージ・フレージャー氏來學講演を行なう ○陳列館考古圖録」新輯刊行
 - 四 ○下程勇吉教授教育學部に轉出 文學部教授を兼任 ○保田清講師・田中謙二講師・上野昭夫講師分校へ轉出 ○大島唐正講師東教大へ轉任 ○澤瀉久孝・石田憲次名譽教授となる
 - 六 ○御輿員三(英文) 助教授に就任
 - 八 ○赤松俊秀(國史) 助教授に就任
 - 九 ○臼井二尙教授文學部長に就任 ○朝永三十郎名譽教授逝去
 - 一〇 □學生ストライキを起す
 - 一一 ○野間光辰助教授(國文) 教授に昇任 國語學國文學第一講座擔任 □服部峻治郎醫學部教授本學學長に就任 □天皇陛下本學に行幸 □同學會解散
- 昭和二七 (一九五二)
- 二 ○西谷啓治(宗教) 教授に就任 宗教學第一講座擔任 ○西田直二名譽教授となる
 - 三 ○「慶陵」圖版冊・「文學部研究紀要」第二刊行 ○朝永文庫收臧
 - 四 ○八木崑講師東大へ轉任 ○前川貞次郎(西史) 助教

昭和二八 (一九五三)

- 授に來任 □學生ストライキを起す
 - 五 ○鹽谷饒(獨文) 講師(專任) に就任
 - 六 ○ワード・ジョンソン教授連續特別講義開催 □學生學長室前でハントスに入る
 - 七 ○本吉良治(心理) 講師(專任) に就任
 - 八 ○原隨園教授文學部長に就任
 - 一一 ○有光教一講師(考古) 助教授に就任
- 昭和二八 (一九五三)
- 一 ○フェアバンク教授來學
 - 二 ○コール博士來學 ○ダーシー博士來學 講演を行なう ○井上智勇教授一年間獨國へ留學(二六二―二九九)
 - 三 ○「文學部研究紀要」第二・「慶陵」本文冊刊行 ○西口文庫收臧 ○エリセイフ博士來學
 - 四 ○山内得立教授退官 ○文學部規程改正・大學院文學研究科規程制定 ○小林行雄(考古) 講師(專任) に就任
 - 五 ○菅泰男(英文) 助教授に來任 ○新制大學院文學研究科發足 修士課程開始
 - 六 ○山内得立名譽教授となる
 - 七 ○野田又夫助教授(西哲) 教授に昇任 哲學哲學史第四講座擔任 ○松尾義海助教授(印哲) 教授に昇任 哲學哲學史第二講座擔任 ○金倉文庫收臧
 - 八 ○那波利貞教授退官 ○西洋古典語學西洋古典文學講座設置

九 ○那波利貞名譽教授となる ○「考古學叢書」第一册刊行

一〇 ○教育學教授法講座教育學部に移管 ○赤松俊秀助教授(國史)教授に昇任 ○園原太郎助教授(心理)教授に昇任 ○泉井久之助教授附屬圖書館長に就任

一一 ○荒神橋事件起る

一二 ○學生無期限ストライキを起す ○瀧川幸辰法學部教授本學學長に就任 ○無期限ストライキの中止を命ず

昭和二九 (一九五四)

三〇 ○「明代滿蒙史料」第一・三卷刊行 ○「文學部研究紀要」第三刊行 □舊制大學消滅

四〇 □分校を教養部と改稱 ○三宅剛一(哲學)教授に就任

五〇 □教官食堂再開

七〇 ○佐藤長(東史)助教授に就任

八〇 ○高田三郎教授文學部長に就任 ○松平千秋助教授一年間英國へ留學(一九五二)

昭和三〇 (一九五五)

一〇 ○池田義祐(社會)助教授に就任

一一 ○野上素 助教授(伊文)教授に昇任 伊太利語學伊太利文學講座擔任

一二 ○吉澤義則名譽教授逝去

來學 講演を行なう

二〇 ○「明代滿蒙史料」第四卷刊行

三〇 ○「明代滿蒙史料」第五卷刊行

四〇 ○鹽谷饒講師(專任)教養部へ轉出 ○文學部規程改訂 ○文學部陳列館内規制定 ○羽田亨名譽教授逝去

五〇 ○フランケン教授來學 講演を行なう ○京大俱樂部再建總會開催 會名を「以文會」と改稱 ○新制大學院文學研究科博士課程開始

六〇 □學生の總長への暴行事件起る □同學會解散

七〇 ○柿崎祐一(心理)助教授に來任 ○文學部陳列館内規改正 ○「考古學資料叢刊」第四册刊行 ○勞榦教授來學 講演を行なう

一〇 ○トゥッチ博士來學 講演を行なう ○中西信太郎教授一年間米・英國へ留學(一九五二)

一一 ○錢穆來學 講演を行なう

一二 ○中共科學院學術調查團(團長郭沫若)來學 ○文學部陳列館博物館相當施設として指定

昭和三一 (一九五六)

一〇 ○「明代滿蒙史料」第六卷刊行

二〇 ○ライシャワー教授來學

三〇 ○「明代滿蒙史料」第七・八卷刊行

四〇 ○越智武臣(西史)講師(專任)に就任 ○美學美術史第二講座設置

五〇 ○濱田敦(國文)助教授に就任 □創立記念祭に際し園遊會復活

八〇 ○吉川幸次郎教授文學部長に就任 ○梅原未治教授退官

昭和三十一年十一月十五日印刷
昭和三十一年十一月二十三日發行

京都大學文學部五十年史

京都大學文學部

京都市左京區吉田本町

印刷所

內外印刷株式會社

京都市下京區西洞院通七條南